

令和5年4月6日

令和4年度「熊本大学病院医療助成金」使用実績報告書

(一般財団法人恵和会寄附金)

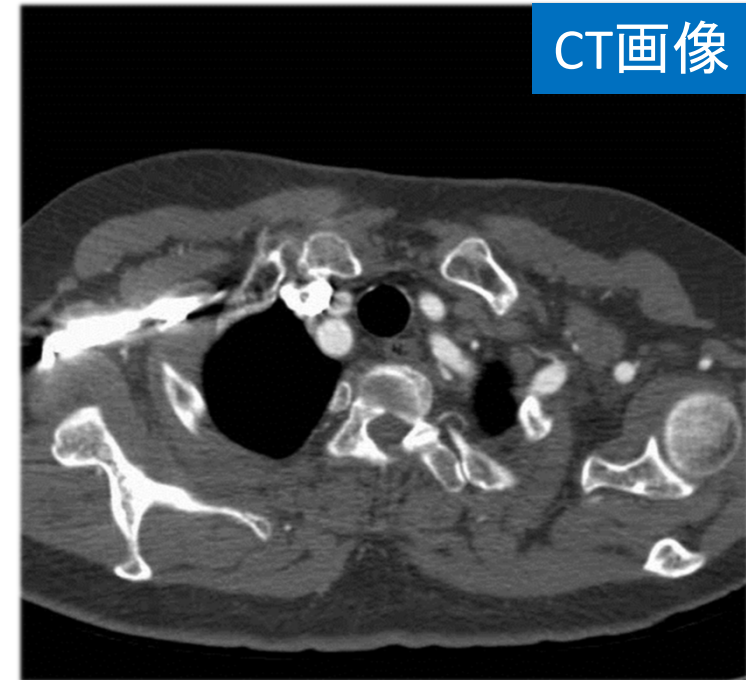
使用者 (代表者)	氏名	所属	職名
	尾田 済太郎	画像診断・治療科	准教授
グループ全員 *記入欄が不足する場合は、 別紙に記入	木藤雅文	画像診断・治療科	特任助教
	坂部 大介	中央放射線部	CT主任技師
	森田康祐	中央放射線部	MRI主任技師
	草野裕美	中央放射線部	看護師
	上山 房	中央放射線部	看護師
	松尾 舞	中央放射線部	看護師
研究テーマ若しくは活動テーマ	CT/MRI造影剤の重症急性副作用に対する適切な現場対応に向けた取り組み		
助成金額	400,000円	助成金使用総額	400,000円
<p>使用内訳</p> <p>消耗品 222,686円 (内訳) 編集ソフト、辞書ソフトなど</p> <p>旅費 0円 (内訳)</p> <p>その他 177,314円 (内訳) 書籍など</p>			
<p>成 果(※具体的な効果および自己評価も含め1,000字程度)</p> <p>我々のグループでは熊本大学病院における造影剤の重症急性副作用に対する適切な現場対応と医療安全を目指して、持続可能な仕組みをコンセプトに2022年度において以下の取り組みを実施した。①造影剤副作用に対する多職種スタッフ合同(研修医、放射線科医、放射線技師、看護師など)の教育レクチャー(レクチャー:2023年3月実施[講師 尾田准教授]、定期レクチャーとして毎年実施を予定)、3回のシミュレーション訓練[CT部門、MRI部門、RI部門にてそれぞれ実施]、②放射線科医による検査前管理(既往や副作用歴の確認と対策指示)の強化を目的に部門システム管理体制作り(次期病院システムの部門システムへ導入を予定[プレチェックアプリケーション])、③同意書・問診票の確認プロセスの適正化(看護師・技師によるダブルチェック)、④検査中・検査後の患者観察の手順の整備、⑤副作用発生時の対応マニュアルの更新、⑥副作用記録のシステム化(次期病院システムでは放射線部システムと電子カルテとの副作用情報連携を予定)、⑦安全管理動画作成。さらに放射線科医、放射線技師、看護師が連携した安全管理が実施できるように、2022年度より多職種合同の中央放射線部医療安全・運営ミーティング(毎月第4水曜にZoom実施)を立ち上げ、種々の議案に対してリスクマネージャー会議を通じて院内全体へ安全管理の周知を行った(緊急検査への主治医同伴の件、副作用カード運用の件、造影後の院内観察の件など)。さらに毎週月曜始業時にも各部門内の多職種ミーティングをスタートさせ、課題やインシデントの共有を行い連携意識の向上に役立っている。2022年度の造影剤の重症急性副作用の発生は3件(造影CT 11656検査中</p>			

：0.03%）であり、例年（2019年～2021年は発生頻度0.05%～0.09%）よりも低い頻度だった。3例全てで多職種連携のとれた迅速な対応ができ、後遺症を生じた例や死亡例はない。R5年4月の日本医学放射線学会総会で当院での造影剤副作用対策の取り組みについて紹介予定である。

造影CT検査の説明



造影CT検査とは



- CT検査は、X線を使用して体の中を画像化し、詳しく調べる検査です。
- 造影CT検査では、ヨード造影剤という注射薬を使用します。

造影CT検査のメリット

3D画像

造影前

造影後



肝腫瘍

大動脈瘤

造影剤を使用することで病変を見つけやすくなります。また、病変の性状も詳しく観察することができるため、治療方針の決定に役立ちます。

